

氏名	森田 公美子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第6285号
学位授与の日付	令和2年9月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Coping process against familial breast cancer by second patients within blood relatives (同一家系における2人目の乳がん患者の家族性乳がんへの対処過程)
論文審査委員	教授 中塚幹也 教授 谷垣静子 教授 森恵子

学位論文内容の要旨

家系で2人目の乳がん患者は、乳がんに対する家系の適応力を高めて存続を図る中核となる。本研究は、家系で2人目の乳がん患者の家族性乳がんへの対処過程を明らかにし、家系としての対処能力を高める支援を検討することを目的とした。研究方法は、研究参加者16名に半構造化面接を行い、質的帰納的に分析した。結果、2人目の患者は、乳がん発症前には、1人目の闘病を、強制力を伴わない警告と捉えてその深刻さを和らげる一方、発症時には感度の高い直観が働き、迅速な受診行動をとっていた。発症後は、先に乳がんを経験した近親といった先達者を得て、発症リスクの高い未発症者を守り、家系を擁護し、さらには遺伝性をうやむやにした家系を超えた擁護者となった。考察として、家族性乳がんの家系を守るには、未発症者の危機への備えを怠ることなく、その一方では平時の不安を和らげ、女性の人生の決定への悪影響を最小限にすること、1人目と2人目患者が獲得した対処方法を蓄積する支援が有用であると考えた。

論文審査結果の要旨

家族性発症の乳がん患者，特に家系の中で2番目に発症した乳がん患者を対象としており，発端者との関係性，また，家系内の他の女性との関係性の中で，種々の思いを持ちやすいと考えられる．その患者のattitudeとcopingについて質的検討を行っており，今後の進歩が見込まれているがんゲノム医療に関連して，必要性が増している看護ケアを行う上で，重要な示唆を得ることができていると考える．今後はさらに，時間的経過の中でattitudeとcopingの関連性の検討，看護スタッフとしての家系内の未発症の女性へのアプローチも方法などについての検討も期待される．